



桐生ロータリークラブ週報

2008年

国際ロータリー第2840地区 2007-2008年度 国際ロータリーのテーマ



ROTARY SHARES

R.I 会長 ウィルフレッド J. ウィルキンソン

善意というものがいいなら
ロータリークラブは唯の社交クラブだ。
職業は金儲けのためにしかなく、
社会奉仕というも施しにすぎず、
国際奉仕は外交以外の何ものでもない。

パストガバナー 前原 勝樹

会長 佐々木 裕 幹事 森 末廣

クラブ会報・広報委員会 園田 誠・吉田 和夫・三橋 輝英・清沢 元喜

1月28日号

第2638回例会

(1月21日(月) 第2例会)

- | | |
|---------------|---|
| 1. 点鐘 | 6. 委員会報告 |
| 2. ロータリーソング齊唱 | 7. 卓話 「救世軍と社会福祉活動」
桐生救世軍小隊 大尉 齋藤 丈夫様 |
| 3. 来訪者紹介 | 8. 点鐘 |
| 4. 会長の時間 | |
| 5. 幹事報告 | |

ようこそビジター

〈卓話者〉桐生救世軍小隊 大尉 齋藤 丈夫様

会長の時間

ここ数日来いよいよ寒さが身に沁みる様になりましたが、暦では今日大寒であります。体調の管理に気を付けて下さい。

本日より、いよいよ新しい事務局員の西塚広恵さんの勤務が始まります。一日も早く仕事に慣れて頂き、又、会員の顔と名前を覚えて頂く様お願いを申し上げます。又、飯田さんのご指導をよろしくお願いを申し上げます。



新事務局員：西塚広恵さん

今年度も後半に入り、次年度の第二回理事役員予定者会議が本日例会終了後開催されます。議案の重要な一つの次年度の各委員長さんの人事に入っている様です。お声がかかりましたら、気持良くお受け頂きます事をこの場よりお願いを申し上げます。

次週例会は、当クラブ名誉会員である亀山市長を卓話者に迎えての例会となります。沢山のご出席を心よりお願いを申し上げます。

幹事報告

- RID2840松倉ガバナーエレクトより国際協議会開催地サンディエゴよりエアメールが届いております。
- 地区より「源流セミナー」のご案内が届いております。各テーブルに配布しておりますのでご希望の方はお申し込み下さい。
- 日本てんかん協会群馬県支部より「からっかぜ」が届いております。
- 桐生南、桐生西、桐生中央、桐生赤城、足利の各RCより週報到着。
- 本日例会終了後は理事役員予定者会議を開催いたしますので、関係役員の方は出席をお願い致します。

委員会報告

出席委員会

本日の出席(平成20年1月21日)：総員68名・出席45名
平成20年1月7日例会修正出席率：71.7%

ニコニコボックス

藤井征夫君…休会して3年、おかげさまで体調が整ってきました。再会を楽しみにしています。／前原勝良君…救世軍 齋藤丈夫様をお迎えして／前原正一君…ニコニコの皆さんのお顔を拝するとついニコニコして／坪井良廣君…盗難に会った観音様が帰って来

例会場 桐生俱楽部 TEL45-1513 例会日 毎月曜日 12:30PM
ホームページ <http://www.kiryu.co.jp/kiryurc/> メール kiryu-rc@ktv.ne.jp

ました。「おかえり観音」です。／前原勝良君…出席100%／北川 洋君・松島宏明君・藤井征夫君・園田誠君…誕生祝／五十嵐健雄君・北川 洋君・八木橋祥介君・小島弘一君・牛脇 章君・吉田栄佐君・佐々木裕君・坪井良廣君・蓮 直孝君・高橋 昇君・吉野雅比古君・本田雄一郎君・坂入 勝君・園田 誠君・吉田和夫君・木村洋一君…写真いただきました。

卓 話



「救世軍と 社会福祉活動」

桐生救世軍 小隊 大尉
齋 藤 丈 夫 様

救世軍とは？

1. キリスト教(プロテスタント)の教会
イギリスに本部を置き、現在、世界113の国と地域で活動する国際的なキリスト教の団体です。
軍隊形式「教会=小隊」「信徒=兵士」「牧師=官」
モットー「心は神に、手は人に」
2. 国連NGO
救世軍は、1946年に創設された国連経済社会理事会(ECOSOC)において、1947年より特別協議資格(Special Consultative Status)を持つNGO(非政府組織)です。
3. 社会福祉団体・ボランティア団体
現在、救世軍はイギリスで政府に次ぐ規模の社会福祉団体であり、世界で約1万2千ヶ所の社会福祉施設、教育機関、医療施設を運営しています。
4. 2004年ノーベル平和賞候補
米国経済専門誌『フォーブス』より「全米で最も効率の高い組織」として評価され、2004年度ノーベル平和賞候補に挙げられています。
5. 禁酒禁煙の団体
1887年にカナダで女性アルコール依存症者ホームが開設されて以来、現在に至るまで、救世軍は世界各地で、依存症に陥った方々の回復と社会復帰のための支援を続けています。そのために、救世軍人はアルコール抜きのライフスタイルをとっています。

救世軍の歴史

1. イギリスで誕生
開戦：1865年
創立者：ウィリアム・ブース
活動地域：東ロンドン、スラム街
1891年にウィリアム・ブースは『最暗黒の英国とその出路』を出版し、都市植民・農業植民・海外植民の三段階からなる社会改良計画を発表。10万ポンドの事業資金を公募し、大規模な社会福祉事業に着手しました。
2. 日本の救世軍
開戦：1895年
14人のイギリス人士官が横浜に上陸して活動を始めました。日本人最初の救世軍士官は山室軍平で、名説教家、また聖書の福音を平易に説いた『平民

の福音』の著者として知られています。彼は、遊郭から婦人を解放した廃娼運動や、結核療養所の設立などにも力を注ぎました。

現在は、49の小隊(教会にあたる)での伝道活動のほか、病院や保育所など、日本全国に広がる社会福祉施設を通して働きを進めています。

3. 桐生での開戦

開戦：1902年(明治35年)

明治35年、大雨のため渡良瀬川が氾濫、桐生川・新川のあたりが大きな被害を受けました。当初、伊勢崎小隊・足利小隊から救助・慰問活動のために士官が桐生に来ていましたが、活動を本格的に行うにあたり、9月26日、桐生新町5丁目71番地に部屋を借り、救世軍桐生小隊を開戦しました。開戦にあたっては桐生町の有力者森山芳平氏(桐生で初めて化学薬品による織物の染色、及び「羽二重」という薄地の絹織物を開発)が尽力したものと思われます。

最近の働き

1. 海外支援活動

途上国開発支援（2006～2008年）

国際協力機構(JICA)“草の根技術協力事業”的一つに救世軍が採択され、2006年より3年間、5千万円の資金提供を受け、パプアニューギニア・ガルフ州の地方村落自立支援のために活動しています。

ペルー沖地震の被災地支援活動（8月）

犠牲者500人以上、負傷者1500人となったペルー沖地震に対し、特に被害の大きかったビスコの町で支援活動を行っています。

食料配給3000食/日、毛布4000枚、マットレス600枚、水2000トン、バケツ400個等。

バングラディッシュ・サイクロロン「シドル」（11月）

当面、優先される課題は食糧供給であり、米、豆類、油、塩が3,216世帯に配布されました。総計では、16,000人が救世軍から食事を受けたことになります。また、稲の苗がほぼ壊滅状態になり、農業従事者の生活が困難になったことを受け、救世軍は彼らに種もみを配布しました。

韓国原油流出事故・原油除去支援（12月）

韓国、テアン(泰安)半島近海における原油の大量流出事故が報じられたが、救世軍は原油除去作業を支援する最初の非政府組織(NGO)となった。支援チームは作業初日、マリボ(万里浦)海岸に移動給食車を出して、軍人、警察官、消防員、地元ボランティアに食事と温かい飲み物を提供した。

除去作業2日目、この時点で従事していた2,000人の作業員に食事を提供するため、救世軍緊急サービスの車両が出動した。インスタント・ラーメン、魚肉入りスープ、缶コーヒーなど、食料と飲料が多くの作業員に提供され、たいへん喜ばれた。

2. 国内の働き

新潟県中越沖地震被災者支援
路上生活者・冬季街頭給食支援

3. 地域の働き

桐生地区NPO団体への支援
街頭生活者支援
柏寿会(高齢者の集まり)